



「今すがた一おどり」 山本 昇雲（別名・松谷^{しょうこく}）高知県立美術館蔵
木版多色摺 36.7×25.2 cm（外寸） 制作年 明治42年3月 版元 大黒屋松木平吉
山本昇雲（1870-1965）は、明治・大正のベストセラー雑誌である『風俗画報』に四季折々の人々の暮らしや町中の風景等を描いた風俗画家として活躍した。また、明治期末には、「今すがた」や「子供あそび」「四季のながめ」といった、過ぎゆく江戸の情調を含んだ美しい女性達や、生き々と元気よく遊ぶ子供たちを描いたシリーズ等、当時の技術の粋を尽くした木版画を制作しています。

「ジュエリー文化史研究会」で拝見した前差簪（図12-4-8）は「今すがた一おどり」に描かれた少女の簪に似ています。研究会で貴重な装身具を拝見する度に、どのような女性が、どんな場面で装着したのだろうか？と想像をしてしまいます。晴れ舞台で踊る少女は左手の小指に指輪も付けています。愛しい娘の晴れ姿に一段と花を添える前差簪からは、誇らしい親の愛情さえ感じさせる一枚です。尚、山本昇谷は、南画家・瀧和亭^{たきかてい}に入門し、横浜の女学校の絵画講師や天賞堂や三越からの指輪や櫛笄・金銀銅器のデザイン・染織物の現図描き等の仕事をしていました。

図版は浮世絵太田美術館「山本昇谷」2008年より転写

（鈴木 はる美）